



wakayama
univ.

国立大学法人
和歌山大学



和歌山大学 南紀熊野サテライト 2019年度 事業総括書

2020年3月

和歌山大学 南紀熊野サテライト

南紀熊野サテライト事業総括 報告書 2019年度

目 次

1、はじめに

南紀熊野サテライト 2019年度の事業概要と課題	2
--------------------------	---

2、具体的活動成果・事業実施状況

【1】 高等教育部門／授業実施状況／主催講座関係	3
【2】 生涯学習部門／高大連携活動	11
【3】 地域研究／本学授業講義支援／学生、同窓会活動支援	13
【4】 地域連携／産学官連携部門／地域からの相談／広報活動	17
【5】 本学防災対策本部分室の活動	19
【6】 運営基盤の強化／視察受入、研修参加等	20

3、あしがき	22
--------	----

4、参考資料（ 広報チラシ一覧、新聞掲載資料一覧 ）

はじめに

◆ 設置14年 サテライトで学んだ社会人学生が地域の中核となって活躍中！

和歌山大学南紀熊野サテライトは、2005年4月に「地域型サテライト」として設置後14年が経過。地域の課題解決に資する人材育成を実施している。経年の変化としては、サテライトで学んだ社会人学生が地域での中核人材として活躍している。具体的には、地域で講師となり講座を開設するなど人材を育成する側となって知識の循環が生まれている他、学修後に起業や地域活動を通して地域振興に繋がる取り組みを行うなど地域振興、文化振興に繋がる諸活動を実施している。

高等教育関連では、地域ニーズを取り上げた授業編成や開設時間を検討し、体系的な地域学の学習機会を継続的に設置した。地域学から郷土愛を育み、地域特有の資源を保全や活用する活動に繋がる各種の講義を運営。持続可能な次世代の観光経営のあり方を実践的に学ぶ場として「南紀熊野観光塾」を継続設置。全国から自治体職員、観光商工業、経営者、地域住民、本学と他大学の学生等、多数の参加を得ている。

組織運営は、連携協議会企画委員会にて「第三期アクションプラン」年度毎の進捗を確認しながら次年度15周年に繋げたい。本報告書において2019年度事業を総括する。

◆ 2019年度事業の特長・課題 (※期首に定めた重点項目の取り組み)

【事業の特徴】

(1) 実践力のある人材育成、ニーズに合った多様な学習機会を設置

地方創生に資する「南紀熊野観光塾」を開催。全国から観光や地域経営を学びに来る塾となっている。体系的な学部授業（「熊野郷土学」、「世界農業遺産」、「地域づくりの理論と実践」）を継続設置。広域のニーズに応えるために東牟婁地域での授業、講座の設置を継続的に実施。

(2) 高校との連携強化

大学生と高校生が共同で調査や報告会を実施。高校生が地域で開講している大学講義を受講して大学進学への動機付けに繋げている。

(3) 学生、教員の地域交流活動の支援、教育研究の支援、地域情報の提供

学生や教員の調査研究に必要な地域の情報を提供。地域での活動支援を実施。

(4) 産学連携、共同研究、教育研究プロジェクトの支援

地域課題に資する調査研究を他大学と連携して実施。（木育事業、観光地防災等）

【今後の課題】

(1) 教育研究活動による地域発展モデルの構築と更なる連携の推進で「知の循環」を目指す。

(2) 学内外の支援組織体制の構築に向けて情報の共有と活用を推進。

(3) サテライトを拠点として、地域で活動する学生、同窓会組織、小中高大等の交流推進に貢献。

(4) 学内外へ大学活動とサテライトの認知向上のための戦略的な広報活動。

【1】 高等教育部門／授業実施状況／主催講座関係

1-1 高等教育（大学院・学部授業）関係

大学院受講者5科目延べ14名（修士課程含）、学部受講者7科目延べ130名（高校連携含）合計144名
平成31年度・令和元年度

南紀熊野サテライト受講生申請状況一覧

区分	開設	授業科目名	担当教員	担当学部	受講者数			合計
					サテライト	修士	高校生	
大学院	前期	オトナの生涯スポーツライフとプロモーション	彦次、他	教育学部	3	0	/	3
		民法と現代的諸課題	吉田	経済学部	1	0		1
		食農地域づくり特論	大浦、他	観光学部	5	0		5
後期	グローバリゼーションの歴史と現状	今田	経済学部	3	0	3		
	メディアと情報技術を活用したデザイン概論	鱒坂、他	システム	2	0	2		
					合計			14

区分	開設	授業科目名	担当教員	担当学部	受講者数			合計
					サテライト	大学生	高校生	
学部	前期	地域暮らしの法律学B	吉田	経済学部	13	0	0	13
		熊野郷土学2A	此松 他	オムニバス	13	1	9	23
		地域づくり理論と実践（通年）	藤田	観光学部	16	24	1	41
後期		春夏秋冬の哲学	天野	教養の森	14	1	0	15
		地域暮らしの法律学C	吉田	経済学部	1	0	1	10
		世界農業遺産	養父 他	シス工学部	10	5	2	17
		熊野郷土学2B	此松 他	オムニバス	10	1	0	11
					合計			130

※オムニバス（学部複合での開催の意味）

総合計	144
-----	-----



大学院授業の様子（田辺市内）



学部授業の様子（新宮市内）

《実施概要》 ※特徴的なものを赤文字表記する。

①大学院科目の概要

《フィールドワークを取り入れた地域型授業を実施》

教室での座学だけではなく地域の実践者への聞き取りや現地での視察調査を実施するなど学習を深めた。

「オトナの生涯スポーツライフとプロモーション」では、白浜町円月島付近でのシーカヤック演習を実施。円月島付近、番所山公園の海岸を見学。和歌山県が保有する素晴らしい自然環境を体感し、その形成や特徴、生涯スポーツにおけるガイドに必要な要素や、近年の成人期以降の多様なスポーツの楽しみ方に関する課題や可能性への理解を深めた。また、同大学院授業では、6月13日～16日に白良浜にて開催された「WFDF2019 アジア・オセアニアビーチアルティメット国際大会」の運営支援スタッフとして、大学生等と共に受入支援を実施。大会には日本を含めて10カ国・地域から40チーム700名が訪れた。外国人選手を対象に白浜の足湯や観光スポットを紹介する「Food&Drinkを巡るウォークラリーシート」を作成したり地域の子供達に国際大会へ関心を持ってもらうための訪日客への折鶴のお土産や、当日のインフォメーションの支援を実施。講義では、これらの体験を通して、地域の潜在的な魅力を探索できる能力を育成して表現するプロセスを理解するなど、実質的なプロモーションを学んだ。



大学院授業でのカヌー演習の様子（白浜町 円月島付近）



WFDF2019 アジア・オセアニアビーチアルティメット大会準備の様子（田辺市）



当日の大会の様子



運営スタッフとして参加する様子（白浜町）

②学部科目の概要

《総合的・体系的な学びの機会に、2年間の継続授業科目として設置》

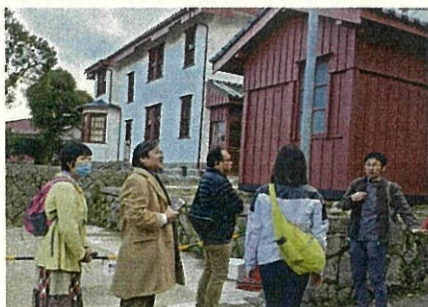
地域ニーズを反映した授業編成で、**体系的な学びの機会**として設置。南紀熊野地域の諸課題に対する地域ニーズの高い内容を現地講師や先進地講師も招いて編成した。学内の地域研究の成果を地域貢献として授業に編成して開講。前期3科目、後期4科目の計7科目で編成。前期・後期と継続して受講した者へ「修了証」を発行。継続受講を推奨した取り組みを実施。体系立てた授業編成と修了証発行により、継続受講数が増加。また、県教育委員会との連携で実施している「**高校生を対象とした大学授業の公開**」を受入。高校生、和歌山大学生、地域住民が地域の同じ教室で大学の講義を受ける機会となっている。



授業の様子 高校生と社会人が同じ教室で学習（左：新宮市、右：田辺市）

「熊野郷土学2A、2B」では、昨年に学んだ紀伊半島の豊かな風土地形、自然の恵みに育まれた民俗と歴史を学習。学習機会設置のニーズが高かった東牟婁地域にて継続的に設置。高校生、ガイド、会社員、自治体職員等が同じ教室で学習。後期は新宮市内を散策。新宮市ゆかりの人物を取り上げた講義では、修復が終わったばかりの**西村伊作**の建築物を修復担当者で見学。当時の生活や、現代に至る文化振興へのまなざし、商店街に残る近代建築の現代的な価値を学習した。

「地域づくりの理論と実践」では実践者を招き、農山村の再生手法として注目を集める都市農村交流によるホスピタリティ人材の育成をテーマに理論と実践から**農山村における地域づくり**戦略を学んでいる。授業では、受講者における地域での学びの質的变化やキャリア形成に与える影響の教育効果も検証アンケート調査も実施。大学生20名、社会人20名が同じ教室で受講。修了した学生が地域で**新規就業**や**地域での就業**に繋がっていると報告もあり**優良な評価**を得て継続設置となっている。



修復者から内装を学ぶ（新宮市、左：西村伊作邸、右：チャップマン邸）



秋津野ガルテンでの授業の様子

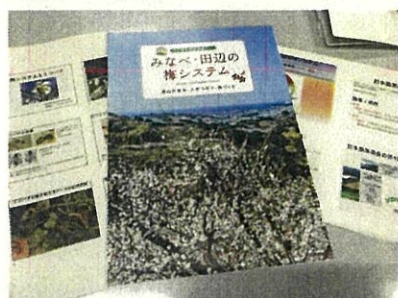


継続受講者へ修了証授与の様子（田辺市）

「世界農業遺産」は、**みなべ・田辺地域世界農業遺産推進協議会の寄附講義**として設置3年目の開催。地元の産業である林業や炭焼き、梅産業や養蜂等の座学とともに現地演習を実施。備長炭振興館や薪炭林に訪れて実物に触れて学んだ。神島高校生2名も大学生、社会人と一緒に授業に参加。授業後に、修了生マイスター等が組織する世界農業遺産「まちキャンパスプロジェクト」アグリキッズ事業の地元協力者の支援を得て、観光学部の大学生がみなべ高校等の現地視察を実施するなどして地域の方から継続した学習機会をいただいた。次年度に大学生と高校生、住民等で連携して地元の若い世代に関心を持ってもらえるプログラムの作成を計画している。

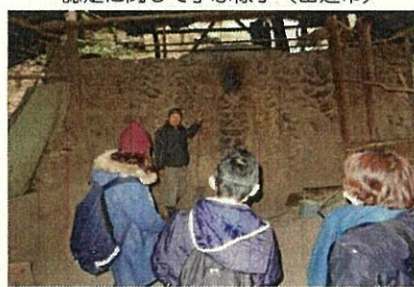


世界農業遺産の授業の様子（田辺市・みなべ町）



世界農業遺産

認定に関して学ぶ様子（田辺市）



受講生と学生がみなべ高校の見学（みなべ町）

1-2 主催講座・主催研修会関係

《和歌山県での実践的な観光の学びの講座、講演会を開催》

南紀熊野サテライト連携協議会主催の**公開講座&受講生募集説明会**を、**夏季と冬季**に西牟婁地域（田辺市会場）、東牟婁地域（新宮会場）にて実施。また、地方創生の一助に和歌山大学観光学部の教員と連携して西牟婁地域と東牟婁地域にて**南紀熊野観光塾**を継続開催。その他、授業終了後の夕方に若年層も参加できる「サイエンスカフェ」を実施している。

①南紀熊野サテライト連携協議会主催 公開講座

《令和元年度後期 公開講座&受講生募集説明会》

【西牟婁地域：田辺会場】

講演名：「和歌山大学南紀熊野サテライトキャンパスオープンセミナー」

開催日：令和元年8月4日（日）13時00分～15時00分 参加 15名

会 場：和歌山県立情報交流センター ビッグ・ユー 情報実習室1（田辺市新庄町 3353-9-102）

内 容：記念講演「医療ミスに関する民事上の争い」

講演者：吉田 雅章 教授（和歌山大学 経済学部）

講演内容：後期開講予定の「地域暮らしの法律学C」の紹介を兼ね、『医療ミスに関する民事上の争い～ガンの転移を見落とした医療ミスをめぐる～』をテーマに講演。教材としては、山崎豊原作の『白い巨塔』がドラマ化されたものやフジテレビ系列で放送されたリーガルハイ、ポール・ニューマン主演の映画「評決」などを利用して解説する等々。学部授業「地域暮らしの法律学C」の授業紹介も含めて講演した。



記念講演会場の様子



授業の内容を紹介する様子

《令和元年度後期 公開講座&受講生募集説明会》

【西牟婁地域：田辺会場】

※新型コロナウイルス感染防止のため延期・中止

講演名：「和歌山大学南紀熊野サテライトキャンパスオープンセミナー」

講 師：和歌山大学 経済学部 教授 吉田雅章 参加無料（先着 30名）

日 時：3月7日（土）13:30～15:30（開場 13:15）

場 所：和歌山県立情報交流センターBig・U 研修室4

内 容：記念講演タイトル『男と女の法律学』

どのような地域に暮らすにしても、さまざまな問題が発生する。好むと好まざるとに関わらず法律と関わりを持たないことはなく地域で暮らすために法律の知識は不可欠である。開講授業「地域暮らしの法律学D」では、「男と女の法律学」をテーマに結婚と離婚を中心に講義する。離婚には結婚の3倍ものエネルギーが必要な一方で、現代では、「バツイチ・バツ二は当たり前」という言葉も耳にする。授業では、結婚よりは離婚に重点を説明する。日常生活の種々の場面を具体的なとして取り上げて、可能な限り分かりやすく説明して法律がどのように役に立つか、日常茶飯事でさえ法律抜きでは考えられないことを理解してもらおうと説明した。

1-3 南紀熊野観光塾

《南紀熊野観光塾第7期を実施》

和歌山県「南紀熊野地域」における、観光産業従事者及び、地域活動者を対象として、「世界のトップレベルの観光ノウハウを各地に広める観光カリスマ」の山田桂一郎氏を塾長に、持続可能な地域経営を考えて自主的に取り組む次世代の観光産業のリーダーとなる人材育成を行うための塾として開講。塾を通して広域連携の人財交流の輪を広げることで持続可能な地域振興を推進することを期待。

「選ばれ続ける地域」をモットーに南紀熊野のあるべき姿をみんなで考え魅力的で持続可能な地域づくりの仕組みを担う中核的な人材を育成している。和歌山大学観光学部生や他大学の学生も参加した。

◆南紀熊野観光塾第7期 全体の概要

主 催：和歌山大学南紀熊野サテライト、共 催：和歌山大学観光学部、株式会社南紀白浜エアポート

後 援：和歌山県、一般社団法人田辺市熊野ツーリズムビューロー

目 的：持続可能な地域経営、観光を担う人材育成と塾生同士の繋がりで広域地域の連携を目指す。

構 成：塾講義及びグループ討議、講評

第7期は、前半に基礎講習、後半に塾生講習と2コースを設置

※新型コロナウイルスによる社会的な状況を鑑み、2月末の塾生講習は次年度に延期とした。

基礎講習：11月28日（木）、29日（金）会場：西牟婁地域にて開催（田辺市）

対象：自治体職員、観光商工事業者、ガイド、一般住民、学生（全部の回に参加する意欲のある方）

塾生講習：2月27日（木）、28日（金）会場：東牟婁地域にて開催（古座川町）

対象：塾生、塾生の紹介者、講師紹介者、学生（全部の回に参加する意欲のある方を募集）

◆南紀熊野観光塾 第7期 基礎講習

日 程：令和元年11月28日（木）、29日（金）

会 場：和歌山県立情報交流センタービッグユニー 研修室1

テーマ：「なぜ、地域振興に観光が必要なのか」

趣 旨：南紀熊野観光塾は「選ばれ続ける地域」をモットーに南紀熊野のあるべき姿を考える塾として開塾。魅力的で持続可能な地域づくりの仕組みを担う中核的な人材を育成することを目指して単に観光を基軸とした地域づくりの先進的な事例を学ぶだけでなく「南紀熊野地域」が抱える諸問題・課題を共有し、顧客に選ばれ続ける地域になるための方策を探るワークショップやセミナーでの意見交換など、塾を通じて各地で活躍されている方々の新たな繋がりと交流の輪を広げることで地域活性化を推進することを期待。

講 師：山田桂一郎（和歌山大学 客員教授、JTIC.SWISS 代表、観光カリスマ、日本エコツーリズム協会理事）

出口竜也（和歌山大学 観光学部教授）

竹林浩志（和歌山大学 観光学部准教授）

此松昌彦（和歌山大学 教育学部教授）

檜垣 敏（観光庁 観光地域振興部 観光地域振興課広域連携推進室長（兼）観光地域づくり法人支援室長）

森 成人（じゃらんリサーチセンター（JRC）研究員、気仙沼市 復興アドバイザー）

森重良太（株式会社 南紀白浜エアポート 誘客・地域活性化室長）



セッション形式で会場と意見交換



意見交換をする塾生（田辺市）

《基礎講習カリキュラム》

「選ばれ続ける地域とは？」～なぜ、地域振興に観光が必要なのか？～

1日目 13時～19時

- ・基調講演（山田桂一郎塾長）13：10～14：10（60分）
SDGsやSociety 5.0 社会とも言われる情報化社会の中で、持続可能な地域振興において観光や経営戦略が地域に果たす役割をやさしく解説するとともに、その前提条件として選ばれ続ける地域になることが重要であることを明らかにした。
- ・講師講演（檜垣敏講師@観光庁）14：15～14：55（40分）
「観光地域づくりと広域連携で得るものとは？」観光庁の政策～インバウンド・着地型観光・～日本版DMOの現状と課題～観光が自由にできる昨今、旅行者は異日常を求めて全国各地に訪れます。地域の人々が自らの暮らしぶりに気付きそれらを商品化するための連携の仕組みと支援策の実例、その課題を紹介。
- ・講師講演（森重良太講師@南紀白浜エアポート）15：00～15：40（40分）
「広域連携の重要性とそれを支える二次交通とは？」南紀熊野の事例～地方空港の役割・着地型観光・相互送客の展望～スマートモビリティ時代に地域内での広域連携を実現するには、二次交通の整備と受け入れ地の意識向上、商品化が必要。民営化した南紀白浜空港が目指す地域の姿と、現在の具体的な活動事例を紹介。
- ・講師講演（森成人講師）15：45～16：45（60分）
「マーケットを捉える仕組みから見える今後の展望」気仙沼の事例～顧客データベースを地域でシェアする仕組みと自主財源、自主自立への道～プロダクトアウト志向から脱却し、マーケットイン志向で商品づくりを行うことが求められています。顧客データベースを構築し、それを活用した商品づくりと地域内経済循環の向上に挑戦する気仙沼の取り組みを紹介。
- ・論点の整理 竹林講師(山田塾長、檜垣、森、森重、出口、此松) 16：50～17：10
講師陣がここまでの論点をトークセッション形式で整理し、2日目に向けた課題を提示。
- ・講師講演（山田桂一郎塾長）17：15～18：00
「脱B級志向で地域振興！」～補助金漬け・薄利多売・劣化版コピー事業からの決別が地域を強くする～本来、価値のあるものを安売りしてはいけません。安易なB級志向は地域を疲弊させます。補助金頼みや先進事例の模倣とも決別し、地域の価値を引き上げる努力を続けることこそが、地域振興を導く最も重要な方策であることを解説。



講演する株式会社南紀白浜エアポート森重氏



元塾生の観光庁地域振興部の檜垣氏

2日目 10時～16時00分

- ・「マーケティングと地域内経済循環」塾長講演(山田桂一郎塾長) 10：00～11：00
マーケティングと地域内経済循環について解説するとともに近年の観光関連産業の現状と今後取り組むべき問題・課題を整理した。

- ・講師講演・トークセッション（山田塾長、檜垣講師、森講師、森重講師）11：00～12：00
「現状認識とマーケティングの重要性を知る」現状認識は充分でしょうか。カンと経験に頼るだけでは現状を正しく認識するのは困難です。顧客のニーズの変化を的確につかむこと、そのためにはマーケティングを正しく理解することが重要であることをセッション形式で解説。
- ・「地域経済循環分析で見る地域の姿」講義（出口講師、此松講師、山田講師）
環境省による地域経済循環分析を紹介し、その活用方法を解説。
- ・個人ワーク（論点の整理）14：10～14：30
環境省による地域経済循環分析を活用して地域の現状を把握。配布されたワークシートを活用して、ここまでのカリキュラムで得た知識を整理するとともに、自身の考えを整理。
（地域経済循環分析、二次交通、ICT活用、目的税、を活用したプランを机上で検討）
- ・参加者と講師による意見交換タイム（山田塾長、檜垣、森、森重、出口、此松）
- ・「次なる一歩に向けて」～あなたにできることは何ですか～（山田塾長）15：20～16：15
2日間のカリキュラムを振り返り、ポイントの再整理を行った。どのような地域もさまざまな業種が存在することで成り立っています。一事業者の繁栄だけでは、地域を支えることはできません。また、楽しく暮らせない地域からは人口がどんどん流出してしまいます。つまり、どんなに観光地化をめざしても、そこが幸せを感じられる地域（感幸地）でなければ持続可能な取り組みには結実しない。感幸地を観光地にする仕組みを4方良しの持続可能な地域経営を目指しているスイスをモデルに解説。全ての講義を修了した塾生へ修了証書を授与、記念撮影。
（大阪観光大学の学生を観光塾に受け入れ、塾生と共に卒業論文の聞き取り調査に協力）



講演する塾長と会場の様子



参加者と記念写真

◆南紀熊野観光塾 第7期 塾生講習

日 程：令和2年2月27日（木）13時～（任意宿泊）～28日（金）16時迄

会 場：和歌山県東牟婁郡古座川町月野瀬881-1（南紀月野瀬温泉ほたん荘・いろり館）

講 師：山田桂一郎塾長（和歌山大学客員教授、JTIC、SWISS 代表、観光カリスマ、日本エコツーリズム協会理事）

出口竜也（和歌山大学 観光学部観光学科教授）

竹林浩志（和歌山大学 観光学部観光学科准教授）

此松昌彦（和歌山大学 教育学部科学教育教授）

西谷雷佐（株式会社インアウトバウンド仙台・松島 代表取締役、たびすけ合同会社西谷 代表）

森 成人（じゃらんリサーチセンター（JRC）研究員気仙沼市復興アドバイザー）

山田 拓（（株）美ら地球 CEO、総務省地域力創造アドバイザー、内閣官房クールジャパン・地域プロデューサー）

森重良太（株式会社 南紀白浜エアポート 誘客・地域活性化室長）

参加者：観光塾修了生が含まれる複数名のチーム、個人も可。全ての回に参加可能な者を募集

募 集：定員8組20名程度を募集（満員）※新型コロナウイルス感染防止のため延期

◆南紀熊野観光塾 同窓生活動報告&交流会

日 時：平成31年・令和元年9月4日（金）16時30分～18時00分

会 場：和歌山県田辺市所在 田辺商工会議所

概 要：1期生から7期生の塾生を対象に交流会を開催。塾後の活動を報告から今後の活動に繋げる目的で実施。持続可能な地域の観光を考えて自主的に取り組む次世代の観光産業のリーダーとなる人材育成を行うための塾として開講。交流を通して広域連携の人財交流の輪を広げることで持続可能な地域振興を推進することを期待して毎年開催。

参 加：約25名（活動報告：7期生より6名が報告）

内 容：観光塾生の活動報告と講評。次年度の取り組みに繋げるため塾の開講前に設置している。塾長、講師からの講評の後、塾生意見交換会、場所を変えて懇談会を実施した。



活動報告する塾生



会場の様子（田辺商工会議所）

【2】生涯学習部門／高大連携部門

2-1 生涯学習関係／講座・セミナー

《県教育委員会や地域連携・生涯学習部門と連携、地域課題に寄り添う取り組みに参画》

→地域産業（林業）と教育（子育て、保育）を結ぶ「木育関連事業」の開催を支援した。

教育委員会等の後援を受けて教育関係者や学校へ開催の広報を実施した。

2019年度 高等教育機関コンソーシアム和歌山わかやま学講座（フォーラム）事業

事業名：「木の国わかやま 木育フォーラム in 南紀田辺」

実施日：令和元年8月25日（日）10時00分～16時00分

場 所：和歌山県情報交流センターBig・u 多目的ホール 参加：約700名

主 催：高校教育機関コンソーシアム和歌山、運営事務局：きのくに木育ラボ

後 援：田辺市、田辺市教育委員会、和歌山大学食農総合研究所、和歌山大学南紀熊野サテライト、きのくに活性化センター、南紀熊野サテライト同窓会、NPO 法人南紀こどもステーション

協 力：わかやま木育キャラバン実行委員会、和歌山県立紀南図書館ゆうゆうおはなし会、ヨネクラ等

趣 旨：「木育」の分野では、後進県となる和歌山県に於いて、近年徐々に関心が高まりつつある「木育」の効果と可能性を語り合うフォーラムとして開催。具体的には、木育で育まれる教育効果や地域振興を、県内の川上（森林業）から川中（加工事業者）、川下（教育（主に保育関連）等の様々な分野からの視座で語り合い、研究成果や先進的事例も踏まえて我が県に於ける今後の取組を考えた。地元材は都市部や県外を対象に流通しており、木の国に住まいながら木の恩恵を感じる機会は極めて少なく林業の衰退と共に担い手不足や高齢化が進むなかで郷土の誇りを高める教育や幼少期の木育の取り組みに期待が高まっている。木の国に産まれ育つ子供たちの健全な育成や親子の語らう時間の創出を目指して開催。地元産業への関心を高め、今後の産業と教育分野の幅広い連携を目指す機会とした。またフォーラム当日に、参加者アンケートを実施。集計結果を和歌山大学と信愛女子短期大学の研究者で組織される調査チームに提供、活用頂いた。

→研究調査の事業名：「木の国わかやま」における木育活動の効果的な普及と紀州材の活用促進
 対象：森林管理事業者、木材加工事業者、保育士や小学校教諭等の教育関係者、研究者、学生など
 木育に興味のある子育て世代等の地域住民全般を対象に参加者を募集。（入場無料）
 内容：地元の木材に触れあえて学べる体験型のフォーラムとして実施。紀州材を使った夏休みの木工
 工作体験も実施して親子連れにも多く来場いただいた。木育の推進を目的とした関係団体との
 連携の機会になった。基調講演&トークセッションでは、木育と林業、加工業の現状課題、今後
 の期待をセッション形式で解説。未就学児を対象にした絵本読み聞かせや、来場者に関心を持
 ってもらうために森林を学ぶ〇×クイズ等を実施。会場に地元作家が作った紀州材のおもちゃ
 のキッズスペースや、地元の玩具屋の積み木クラブで遊べるコーナーを設けた。夏休み木工ク
 ラフト体験では、「みなべ・田辺地域世界農業遺産」のチームも備長炭の風鈴作り体験で参加。
 広域から多くの世代に来場いただき、地域の林業や木育に関して学ぶ機会となった。



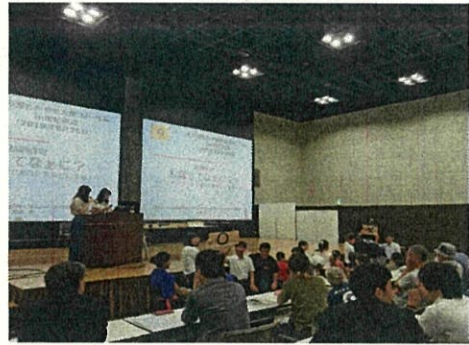
おもちゃ美術館馬場氏の基調講演の様子



木育のトークセッションの様子



森の絵本の読み聞かせ（午前）



森林〇×クイズの様子（午後）

行程：午前の部 10:30～11:30 ゆうゆうおはなし会の絵本よみかせ（紀南図書館）
 午後の部 13:30～13:40 森林〇×クイズ（和歌山大学教育学部&神島高校生徒）
 13:40～14:20 基調講演「木育ってなあに？～ウッドスタートで地域を元気に～」
 講師：東京おもちゃ美術館副館長馬場清氏
 14:20～15:20 トークセッション
 進行：和歌山大学食農総合研究所大浦由美氏
 登壇：田辺市長真砂充敏氏
 BokuMoku 副代表竹林陽子氏
 木の国わかやま木育キャラバン実行委員
 株式会社山長商店 取締役 迫平隆志氏
 和歌山大学 教育学部 幼児教育 高橋多美子氏
 信愛女子短期大学 幼児教育 花岡 隆行氏、野村真弘氏



世界農業遺産の展示と備長炭の風鈴作り体験をする親子の様子



フォーラムの会場の様子



親子連れ 700 名が来場

【3】 地域研究／本学授業講義支援／学生、同窓会活動支援

3-1 地域研究関係

《学内の研究プロジェクトや教職員の地域活動の支援、学生の現地活動の支援を実施》

→期首に定めた項目の学内研究調査事業の地域支援や共同研究を実施。

調査の際に地域の諸団体との連携や、事業申請に必要な他大学の研究者の紹介等を実施。

また、サテライト授業の受講生や塾生、本学や他大学の学生の地域活動の現地支援を実施。

①地域研究の支援活動

調 査 名：「白浜町白良浜周辺地域の観光施設・事業所・宿泊施設等を対象とした地震防災と津波避難に関するアンケート調査」

実 施：関西学院大学総合政策学部都市政策学科照本研究室、和歌山大学南紀熊野サテライト、白浜町役場による共同調査

協 力：白浜温泉旅館協同組合、白浜観光協会、白浜商工会、白浜町役場観光課、危機管理室

実施時期：平成 31 年・令和元年 10 月配布、11 月回収

配布対象：白浜温泉旅館協同組合から各宿泊施設へ配布

白浜町役場、白浜町商工会、観光協会から各事業所へ配布

配布枚数：約 400 通配布、189 通回収（料金受取人払郵便による返信用封筒を利用した回収）

趣 旨：白良浜周辺等は、津波浸水想定区域であり観光地でもある地域では、津波襲来の危険性が差し迫った際には、地域住民とともに観光客も安全な場所まで避難することが強く必要とされる。観光客は一般的に土地勘がなく地域の危険性への認識も低いため、避難誘導をすることが求められる。そのためには地域の避難誘導施設及び避難を呼びかける放送とともに観光施設の従業員の役割も極めて重要になる。昨年度は施設管理者への聞き取り調査を参考に、今回の調査では従業員や事業所の担当者へアンケート調査票の記載を依頼して調査する。

狙 い：白良浜周辺における津波浸水想定区域内の施設の従業員を対象として、地震及び津波の危険性の認識とともに、避難誘導における認識を明らかにすることにより、観光客の避難誘導体制を検討するための素材を得ること。

調査対象：白良浜周辺の津波浸水区域内における商工会、観光協会、旅館協同組合の施設内の従業員等。

研究名：「木の国わかやま」における木育活動の効果的な普及と紀州材活用促進

申請先：高等教育機関コンソーシアム和歌山 大学等地域貢献促進事業

代表教員：和歌山大学 観光学部教授、食農総合研究所長 大浦由美

共同研究：和歌山大学 教育学部准教授 幼児教育 高橋多美子、南紀熊野サテライト古久保綾子

和歌山信愛女子短期大学 幼児教育講師 花岡 隆行、野村真弘

和歌山信愛女子短期大学 きょう育の和センター研修支援員 阪田由美子

調査期間：令和元年7月頃～令和2年3月末（単年度事業）

概要：木を素材にしたものづくりや遊び、木質化された空間を通じて木と触れ合い、木の良さや利用の意義を学ぶ木育活動は将来的に木材（国産材）を選好する消費者を増やし、国産材需要を拡大する取り組みとして注目されるのみならず、木製玩具への地域材の活用等による地場産業振興や、木育指導員養成等を通じた地域住民の文化活動の活性化、地域資源を活かした豊かな子育て環境の提供など地域づくりの観点からも多面的な効果が期待されている。本研究では、木育活動の県内での効果的な普及とこれを通じた紀州材の活用促進を図るために取り組むべき課題を明らかにする。

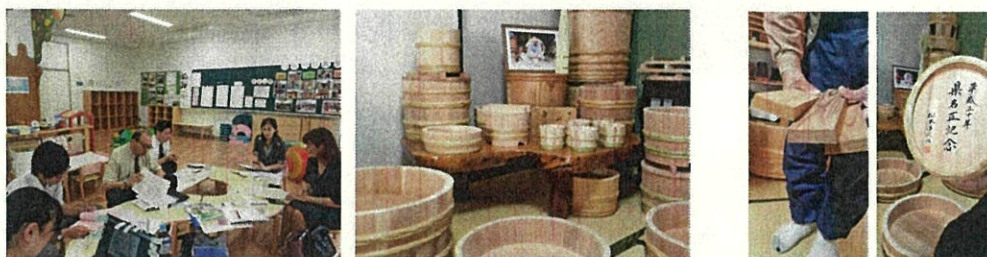
目的：県内外における木育活動の実態把握、県内の木育活動の果たしている役割の検証、木製玩具を用いた木育の教育的効果の検証と紀州材の特徴を活かした木製玩具の検討

県内調査：田辺市所在の木材加工事業者と木工所等に聞き取り調査を実施。

時間：令和2年2月17日、18日の2日間

対象：株式会社山長商店、中西建具、株式会社中川、bokumoku、鮎川木工研究所、桶濱等

内容：製材事業や育林業の現状課題の聞き取り、木育事業への参画の動機と活動内容等。



県域の木材流通と木育の現状の調査研究の様子（和歌山信愛女子短期大学と合同調査）

3-2 本学授業、学生との連携・支援

《学生の調査や研修時に、地域情報を紹介するなどの活動支援を実施》

南紀熊野地域でのフィールドワークや、各種企画の相談や現地調整等、教員や学生の地域での教育研究活動の現地支援を実施した。

田辺市大学連携地域づくり事業（採択2件の申請と現地支援を実施）

概要：大学等との連携によって学生を本市各地域に呼び込むとともに、地域が抱える人口減少や過疎化に伴う様々な課題に対する解決策を地域住民らとともに考え、地域の持続と振興に資することを目的に実施するものであり、大学等が実施する地域や本市行政組織と連携した実践的な活動等に対し支援を行う事業に申請。2件実施した。

事業名：「田辺祭を世界に発信！」OSMとLocalWikiを活用した地域資源の発掘と情報発信によるリーダー育成事業、他

実施日：平成31年7月23日～26日 場所：田辺市街地（南新町）

参加：9名（教職員3名、学生4名）引率代表：紀州経済史文化史研究所吉村先生、神島高校写真部

内 容：7月24日～25日に田辺市の中心市街地で開催される「田辺祭」に参加している地域住民等から聞き取った情報を、オンライン上のOSMとLocalWikiに編集する。地域の文化、民俗の「見える化」の実現となり田辺市街地のみならず応用可能なモデルになる。地域住民の郷土愛やの熟成に寄与することも期待。神島高校写真部等と合同で調査を実施。

2月6日18時～20時、闘鶏神社にて田辺祭の調査報告会を実施。祭の調査でお世話になった関係者を招き、神島高校と合同で調査内容を報告した。



田辺祭当日の様子



インターネットで配信する記事と写真を記録



田辺市街地の様子を取材する様子



留学生も参加



地域に就職した卒業生と一緒に聞き取りする様子



祭りの合間に聞き取りする学生



お世話になった町の方



神島高校との合同の調査報告会（闘鶏神社）

3-3 同窓会の活動支援

《事業毎のアンケート調査や同窓会生や塾生の地域活動の支援》

地域の同窓生の多様な業種世代の交流と連携を深めるための、企画講座や提案事業等の活動を支援している他、情報収集として「交流シート」を配布するなど同窓会生の自主的な活動や組織運営を支援した。授業担当教員との意見交換の懇親会の運営支援や、座学を学んだ社会人学生の地域活動の支援等も実施をしている。(抜粋して紹介：上富田町、みなべ町の社会人学生の取り組み)

南紀熊野観光塾生と「上富田町の地場産品の活用」の調査

町議員や人材育成講習の事務局としても活動中の塾生と共に上富田町岡地区でのひょうたん栽培と活用方法に関して聞き取り調査を実施。加工の手間がと販売先、地域おこしに始めた方々の高齢化も課題。



塾生の活動支援・地域産品の活用について検討（上富田町でのひょうたん収穫）



同窓会活動の支援（上富田町岡地区の皆さん）



加工の行程を調査

南紀熊野観光塾生と大学生が「みなべ高校やみなべ町内を視察」

みなべ町の観光塾生が取り組んでいる「まちキャンパスプロジェクト」にて、次年度に世界農業遺産を地元の子供達に分かりやすく伝えるプログラムを検討するため、連携予定のみなべ高校の教諭に現状の聞き取りと新しい施設の見学、関心を持っていただけそうな生徒が居られるかの聞き取り等を実施。



みなべ高校を見学する観光学部生の様子

新しい校舎と新聞掲載の記事

【4】地域連携・産官学連携部門／地域からの相談／広報活動

4-1 大学との地域の連携・協働推進

《企業や自治体、教育関係からの相談対応や事業協力、活動支援を実施》

地域課題解決に向けて学内外との連携や協働を推進。学内の教育支援フォーラムの配信講義への協力、南紀熊野ジオパーク推進協議会への活動支援。包括連携先の株式会社南紀白浜エアポート職員に地域人材や観光塾生を紹介するなど地域振興に繋がる取り組みを実施した。

- ①地域（行政、各種団体、事業者等）からの相談対応、事業協力。
- ②特別支援教育コーディネーターフォーラム遠隔開催サポート（和大本学→Big.u 通信）
- ③高等教育機関コンソーシアム和歌山等の申請の補助。
- ④地域の協議会や企業からの相談を受けたり、連携先を紹介。

包括連携先の南紀白浜エアポートと連携した活動

- ・地域人材育成「南紀熊野観光塾」の共同開催。エアポート職員を講師として招聘した。
- ・古座川町へご案内して観光協会を立ち上げた塾生の活動や地域での取り組み状況を紹介した。
- ・学内食農 ICT 部門白浜視察（lot 企業の訪問、近畿大学での水産事業の lot 化等）で現地調整頂いた。



株式会社南紀白浜エアポート職員と古座川町視察の様子（トントン釣り、古座川町観光協会、役場等）

4-2 きのくに活性化センターとの連携

《きのくに活性化センターの会議や研究調査活動の支援》

きのくに活性化センターと連携して、地域課題や地域資源について研究調査活動を実施している。

きのくに活性化センターの事業概要：

田辺、新宮両広域圏市町村組合（紀南地方全自治体）や田辺、新宮商工会議所、JA 紀南、和歌山県、和歌山大学（南紀熊野サテライト）の参画による調査研究の機関として紀南地方の諸課題に関するリサーチや相談窓口の役割を担い、地域の価値をブラッシュアップする事業を提案・協同で実践、地域と地域、地域と人を繋ぐ「場」の創出を行っている。

- ・きのくに活性化センター企画運営委員会など会議へ参画。
- ・きのくに活性化センター事業へ参画。ニュースへの寄稿等



きのくに活性化センター総会参加

ニュースきのくにへ寄稿

4-3 大学広報・情報提供関係

《入試広報物の配架や、学内広報室と連携した情報発信、わかりやすい広報媒体を作成した》

大学の入試情報や学生募集要項の他に、大学主催の講座や報告会の広報媒体の配架や、学内広報室と連携した取り組みを行ってきた。大学のサークル紹介や活動の動画を配信できる「デジタルサイネージ」の設置を継続的に実施。南紀熊野サテライトホームページでは、授業の内容や活動紹介を頻回に行った。広報媒体にメール申込できるQRコードを付けるなど情報発信を強化した。



教員免許状更新講習募集要領冊子の配布



申込メールQRコードを付けたチラシ

地域での広報活動に協力

開催名：白浜商工フェア

開催日：平成31年・令和元年4月13日（土）、14日（日）

場 所：白浜町阪田会館（和歌山県西牟婁郡白浜町1）

内 容：白浜商工会青年部のご依頼を受けて第10回白浜商工祭に大学のキャラクターのわだにゃん登場。

来場者に、7月に学内で開催する和歌山大学オープンキャンパスのチラシを配布した。

大学キャラクターわだにゃんは3年連続で出演している。



白浜商工祭の様子



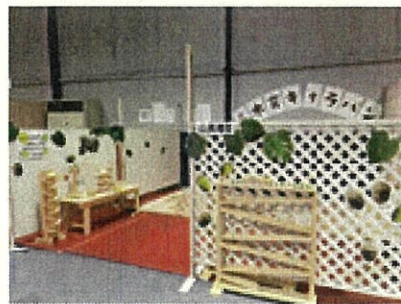
中央のみかんの妖精がわだにゃん

開催名：田辺商工フェア

開催日：平成31年・令和元年4月20日（土）、21日（日）場 所：ハナヨアリーナ

内 容：株式会社山長商店と連携して木育ブースの設営協力と紀州材のワークショップ体験を実施。

紀州材のおもちゃや積み木の展示と、山長商店の地元材を地元の木工職人に加工してもらい、親子で楽しめる木工工作のブースの運営に協力した。木育事業のPRとして実施した。



紀州材のおもちゃや積み木のコーナー



出張木育キャラバンでの木工工作ブース

大学内、観光学部棟内での「地域紹介の企画展」の開催支援

期 間：平成 31 年・令和元年 4 月から 6 月 各 1 か月の展示と 1 回の交流イベント実施

場 所：学内観光学部棟の多目的スペース

内 容：観光学部長の発案で、紀南地域の自治体の観光商工関連の企画展が実施された。この企画の出展の呼びかけと一部地域の現地調整に協力した。参加自治体：太地町、みなべ町、新宮市等



太地町のパネル展示の様子



新宮市商工観光課と新宮女子部の皆様と交流体験「めはりずし」作りの様子

【5】本学防災対策分室の活動

5-1 防災・減災に関する取り組み

〈防災関連の学内の講演会の周知広報や防災研究を推進〉

平成 23 年東日本大震災・紀伊半島豪雨災害支援対策本部の分室として、南紀熊野サテライトが位置付けられ、その後学内研究調査のプロジェクトの現地支援や共同研究、研究報告会の現地支援、広報活動等を継続して実施している。地域での防災シンポジウムの広報支援や、継続して地域の観光地防災への取り組みの支援、今年度は前項のアンケート調査や自治体への聞き取り等を実施した。

学内防災シンポジウム等の広報支援

講演名：防災・日本再生シンポジウム「紀伊半島電網化」～少子高齢化、人口減少に対応した国土保全～

開催日：平成 31 年・令和元年 1 月 30 日（土）13 時 00 分～17 時 00 分

場 所：スマイルホテル和歌山（和歌山市所在） 参加無料

主 催：和歌山大学災害科学教育研究センター

共 催：一般社団法人国立大学協会、東京大学生産技術研究所

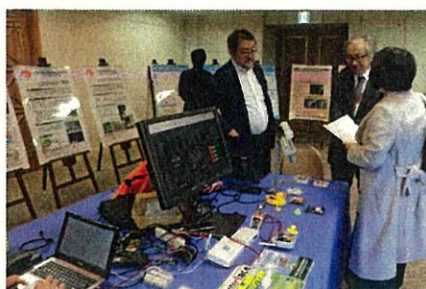
後 援：国土交通省近畿地方整備局、和歌山県、和歌山県教育委員会、和歌山市等

内 容：基調講演「防災減災に向けた大規模土砂災害対策技術センターの取り組み」講師木下篤彦氏
近年の飛躍的な通信技術の発展により、従来ではネットワーク化が不可能であった山岳地域や海上でも人工衛星も併せて利用することで、常時モニタリングが可能な、安価で地産地消できる IoT 社会が実現しようとしている。本シンポジウムはこれらの新しい技術を「普段使い」で活用することによりいざという「災害時」にも確実に作動するネットワークとしての新しい IoT の使い方・普及方法に関して具体例を交えて解説した。この事業の広報協力を行った。

広報先：東牟婁地域の自治体の防災担当者に聞き取りと当日のご案内を配布。
 社会人受講生に広報媒体を配布、サテライトにて広報媒体の配架等。



防災シンポジウムの様子



水位計や端末の展示



パネル展示の様子

学内研究者の衛星通信のIoT水位計設置の見学

前記のシンポジウム「紀伊半島電網化」～少子高齢化、人口減少に対応した国土保全～の担当教員の研究活動を聞き取り、お誘いを受けて御坊市に設置中の水位計のメンテナンスを見学。衛星通信の利用で、安価に受信できて停電時にも活用できる水位計のシステムの説明と活用の方法に関して学んだ。紀南地域での設置希望自治体や自主防災組織等の聞き取りを行った。

次年度に山間部や農山村での活用、水害地域での活用が可能か引き続き調査する。



御坊市の用水路に設置されている水位計



左端末から携帯への送信状況を確認



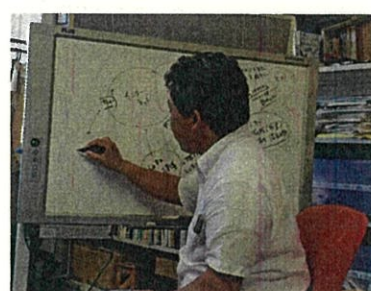
ビルの屋上への通信機器設置の様子



システム概要に関して説明を受ける様子



(端末設置 AC アダプターは不要、乾電池 2 本で数か月稼働)



【6】運営基盤の強化／視察受入等

6-1 大学間連携

《コンソーシアム事業への参画、全国の大学の教職員や連携担当を対象としたフォーラム等の開催支援》
 県内コンソーシアムでの研究推進や支援を実施。和歌山大学では地域連携に関わる教職員・コーディネーターの人材育成、大学と地域の発展に向けた輿論づくり、地域型サテライトへの着目の3点を目的に地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー（合宿型研修）を毎年実施。全国の国立大学、公立、私大の関係者が参加。大学と地域連携に関して学びを共有している。

開催名：「第8回地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー」

開催日：平成31年8月29日（木）～30日（金）1泊2日

主催：和歌山大学、共催：高崎商科大学 参加50名

対象：国公立大学における地域連携担当コーディネーター及び、教職員を対象

会場：高崎商科大学（群馬県高崎市）

内容：和歌山大学が、地域連携に関わる教職員・コーディネーターの人材育成、大学と地域の発展に向けた輿論づくり、地域型サテライトへの着目の3点を目的に主催している事業。今年度は、高崎商科大学での開催。この事業の運営支援を行った。1日目、元和歌山大学学長で国立大学協会専務理事山本健慈氏の基調講演、高崎商科大学の事例報告「CDの引継ぎ～引き継いだ人と引き継がれた人～」と題したパネルディスカッション、グループに分かれたワークを実施。2日目は、前日に続き、ワークと発表にて共有。同じような悩みを持った人との議論と交流、他大学の取り組み事例の共有を通してセミナー終了後も連携できる関係性の構築を目指して実施。



地域連携の研究実践セミナーの様子

6-2 南紀熊野サテライト運営基盤の強化に向けて

《南紀熊野サテライト連携協議会企画運営委員等と「みらい戦略第三期計画」進捗確認》

「地域の知の拠点」として、授業講座等の教育機会の提供だけではなく、紀南地域をフィールドとした「課題解決・地域価値創造」に資する教育・研究・実践の発展を目的としたみらい戦略第三期アクションプランの具体的な項目の成果指標を企画委員等と進捗確認して運営している。更なる基盤強化の推進に企画委員や観光塾生、受講生、地域住民等と意見交換の機会を設けて取り組みに活かしている。

6-3 南紀熊野サテライト視察の受け入れ、研修参加

《他大学の視察の受入や学内教職員の視察受入を実施》

他大学からの視察受け入れや研修会、シンポジウムの参加、意見交換会への参加を行い学外の実践者との意見交換を行った。他大学からの視察の受け入れの他、地域との連携手法の活用事例のセミナーに参加した。

4月 9日：京都大学「変人講座」を視察

5月16日：「国際的視野で考える日本・関西インバウンドの次なる展開～観光地経営とDMOs - the UNWTO QUEST Program～」和歌山大学国際観光学研究センター（CTR）国際シンポジウム AP 大阪駅前ホール、国連世界観光機関（UNWTO）に参加

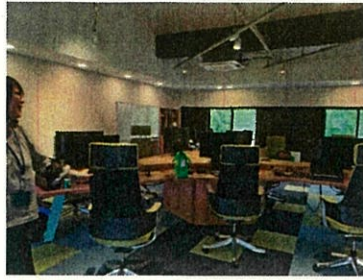
5月21日、27日、28日 観光学部長着任挨拶、紀南エリア来訪行程の調整に協力

6月18日：「スマートシティ勉強会」高垣工務店に参加

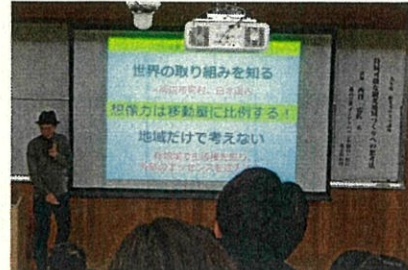
6月20日：株式会社南紀白浜エアポート職員方と古座川町視察（観光塾生を数名紹介）

9月 4日：学内 moodle 講習会、学内研修11月16日 JA ビル COC 報告会に陪席

12月19日：学内の観光学部主催「観光カリスマ講座」を聴講



IT企業のオフィスを視察（白浜町 クオリティソフト）



視察や研修の様子（IT関連や人材育成関連）

6-4 会議運営・他サテライトとの交流会、和歌山大学の最前線拠点として

《各種の会議運営や、和歌山大学・南紀熊野サテライトの情報発信を実施》

- ①オフィス会議、南紀熊野サテライト連携協議会総会、幹事会、企画運営会議の会議運営を担当。
- ②和歌山大学の全学の最前線拠点、情報拠点として大学案内・入試案内・各種大学事業、地域情報提供を行うと共に南紀熊野地域の知の拠点として、教育研究事業への参画・連携、情報発信等の諸活動を実施。
- ③教育研究事業の地域での成果報告や活動成果の情報発信を実施。
- ④和歌山大学南紀熊野サテライト連携協議会みらい戦略第三期計画アクションプランの進捗管理を実施。



南紀熊野サテライト連携協議会 総会の様子

あしがき

本年度もサテライト事業の展開・企画遂行、地域連携事業が多岐にわたり、さまざまな成果となりました。これらは、サテライトだけでは達成されるものではなく、受講生の皆様、地域の皆様、学内の皆様、関係者の皆様の支えがあって実施されたものです。皆様に厚く御礼を申し上げます。今後も「地域と融合する大学」の実践に向けて様々な取り組みを実施します。

和歌山大学南紀熊野サテライト

南紀熊野サテライト事業総括 報告書 2019年度
2020年（平成31年）3月発行

国立大学法人 和歌山大学 南紀熊野サテライト
〒646-0011 和歌山県田辺市新庄町3353-9-102
和歌山県立情報交流センターBig.u 内
TEL : 0739-23-3977 FAX : 3978
E-mail : nankuma@ml.wakayama-u.ac.jp
HP : <http://www.wakayama-u.ac.jp/nanki-kumano/>

平成 31 年・令和元年度 広報資料
(募集要項、チラシ、パンフレット)

平成31年度・令和元年度後期 受講生募集要項、チラシ

◆平成31年後期 受講生募集説明会&オープンキャンパスセミナー

和歌山大学 南紀熊野サテライト キャンパス

Open Seminar オープンセミナー開催

8月4日(日) 13:00~15:00

開場(受付開始)12:45~

県立情報交流センター Big・u 情報実習室1

記念講演
 宇都宮県「地域暮らしの法律学」より
「医療ミスに関する民事上の争い」
 講師: 吉田 雅章 和歌山大学経済学部 教授
 ~ガンの転移を見落とした医療ミスをめぐる~

受講生募集説明会もあります

申込方法・問い合わせ先

お申込書 FAX: 0739-23-3976 締切: 8月3日(土) 17:00

お名前	年齢	性別	学 校	電話番号
ご住所				FAX番号
〒	番 号	電 号	〒	
資料請求	電子メール			

◆令和元年度 後期募集要項

和歌山大学 南紀熊野サテライト 受講生募集要項

【令和元年度 後期】

大学関係員募集要項
 学部副学長 兼 学務部長 兼 学務課長

募集 社会人受講生

働きながら学べる！
 高校生も学べる！

客員講師陣の科目

- 「春夏秋冬の哲学〜日本文化の物語性〜」
- 「地域暮らしの法律学」
- 「地産地消推進」
- 「熊野地区の歴史〜熊野半島の地誌探訪〜」

大学関係員2名

メディアと情報技術を活用したデザイン現場
 グローバリゼーションの歴史と現状

配付場所：ビックユー、市役所町役場（田辺市、新宮市、みなべ町、白浜町、上富田町、すさみ町、那智勝浦町、太地町、古座川町、北山村、串本町）、図書館、公民館、田辺商工会議所、和歌山大学、和歌山県、紀陽銀行、地域拠点他

令和2年度前期 受講生募集要項、チラシ

◆令和2年前期 受講生募集説明会&オープンキャンパスセミナー

和歌山大学 南紀熊野サテライト キャンパス

Open Seminar オープンセミナー開催

◆記念講演 令和2年前期開講予定授業「熊野学」より
「選ばれ続ける南紀熊野になるために」

講師：山田 桂一郎氏 和歌山大学 客員教授

2月29日(土) 13:30~15:30
 開場(受付開始)13:15~

南紀熊野ジオパーク センター

受講生募集説明会も同時開催!

いくつになっても、働きながらでも大学生に!

和歌山大学 南紀熊野サテライト キャンパス

申込方法・問い合わせ先

申込先 和歌山大学 南紀熊野サテライト キャンパス

お申し込み先 FAX: 0739-23-3978 締切: 2月25日(水)17:00

和歌山大学 南紀熊野サテライト キャンパス

Open Seminar オープンセミナー開催

◆記念講演 令和2年前期開講予定授業「地域暮らしの法生活」より
「男と女の法律学」

講師：吉田 雅幸 和歌山大学経済学部 教授

3月7日(土) 13:30~15:30
 開場(受付開始)13:15~
 申込(受付開始)13:15~
 Big-U 研修室4

受講生募集説明会も同時開催!

いくつになっても、働きながらでも大学生に!

和歌山大学 南紀熊野サテライト キャンパス

申込方法・問い合わせ先

申込先 和歌山大学 南紀熊野サテライト キャンパス

お申し込み先 FAX: 0739-23-3978 締切: 3月6日(金)17:00

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止

◆令和2年度 前期募集要項



配付場所：ビックユー、市役所町役場（田辺市、新宮市、みなべ町、白浜町、上富田町、すさみ町、那智勝浦町、太地町、古座川町、北山村、串本町）、図書館、公民館、田辺商工会議所、和歌山大学、和歌山県、紀陽銀行、地域拠点他

